



*Japanisch-Deutsche Gesellschaft*

# Die Brücke 架け橋

日独協会機関誌



2024 10

## 表紙の言葉

8月3日(土)、4日(日)の2日間、獨協大学創立60周年を記念し、「Dokkyo ドイツフェス」が草加市のキャンパスで開催されました。明治期からドイツ文化を日本に移植してきた獨逸学協会学校を起源にもつ同大学のこのイベントは、「ドイツと日本をつなぐ」をキーワードに、ドイツ文化の多様性と豊かさを広く紹介し、学生や地域社会にドイツとの繋がりを感じてもらうことを目的としています。(公財)日独協会も会場の一角にインフォスタンドを設営し、来場者に新規入会勧誘するとともに、8月3日のパネルディスカッション『ドイツの魅力、再発見』に柚岡常務理事が登壇、また本年1月の日独 Manga コンクール 2023 の入賞作品を展示する等、全面協力させて頂きました。

森 宏之 (日独協会 運営委員)

## Zum Titelbild

Am 3. (Sa.) und 4. (So.) August fand das „Dokkyo Deutschlandfest“ auf dem Sōka-Campus der Dokkyo-Universität statt, um das 60. Jubiläum dieser Universität zu feiern. Die Dokkyo-Universität hat ihren Ursprung in der Vereinsschule für deutsche Wissenschaften, die seit der Meiji-Zeit die deutsche Kultur nach Japan gebracht hat. Die Veranstaltung stand unter dem Motto „Deutschland und Japan verbinden“. Ziel war es, die Diversität und den Reichtum der deutschen Kultur einem breiteren Publikum vorzustellen und den Studierenden, sowie der lokalen Bevölkerung das Gefühl zu geben, mit Deutschland verbunden zu sein. Die Japanisch-Deutsche Gesellschaft brachte sich ebenfalls in vollem Umfang mit ein, indem sie einen Informationsstand in der Veranstaltungshalle einrichtete und potentiellen Mitgliedern über die Aktivitäten der JDG aufklärte. Unser Geschäftsführer Herr Yuoka sprach bei der Podiumsdiskussion „Den Charme Deutschlands wiederentdecken“ am 3. August und außerdem wurden die Gewinnerbeiträge des Japanisch-Deutschen Mangawettbewerbs 2023, der im Januar diesen Jahres stattfand, ausgestellt.

Hiroyuki Mori (Mitglied des Verwaltungsausschusses der JDG)

目次	ページ / Seite	INHALT
<b>7月8月の協会活動報告</b>	1	<b>JDG-Aktivitäten im Juli/August</b>
レポート:「ルートヴィヒ2世の欲望の世界を歩く」の背景 大畑 悟	5	<b>Bericht: Hintergrund zu „Wandeln in der Welt des Begehrens von Ludwig II.“</b> Satoru Ohata
<b>ドイツ連邦共和国建国75周年記念 特別企画</b>	6	<b>Zum 75-jährigen Gründungsjubiläum der Bundesrepublik Deutschland: Vorstellung der Erinnerungen</b> Yutaka Okada / Masanobu Mizoguchi
ドイツ、こんなトコロに行ってみた「リューネブルガーハイデ」 河原 美奈子	7	<b>Deutschland, da und dort: Lüneburger Heide</b> Minako Kawahara
協会探訪～湘南日独協会～ 柚岡 一明	8	<b>Besuche der Gesellschaft – JDG Shonan</b> Kazuaki Yuoka
Flo's コラム 高山 フロリアン	8	<b>Flos Kolumne</b> Florian Takayama
ベルリナー・ルフト: 旧博物館の女神と妻たち Dr. ヴェレーナ・マテルナ	9	<b>Berliner Luft: Göttinnen und Gattinnen im Alten Museum</b> Dr. Verena Materna
文化の玉手箱 書籍紹介: すべての赤ずきんたちへ 田中 洋	10	<b>Kulturkiste Eine Buchvorstellung „Rotkäppchen, wie geht es dir?“</b> Hiroshi Tanaka
舞台レビュー「鳴門の第九」を観て 柚岡 一明	11	<b>Bühne: „Die 9. Sinfonie in Naruto“</b> Kazuaki Yuoka
コラム: 驚いてン Sie!? 鎌田 タベア	11	<b>Kolumne „Odoroiten Sie!?“</b> Tabea Kamada
ドイツ経済の動き 第89回 伊崎 捷治	12	<b>Tendenz der deutschen Wirtschaft (89)</b> Shoji Isaki
お知らせ 事務局	13	<b>Informationen</b> Büro der JDG



**ドイツ語講習会****2024年度上半期コース**

火～日曜日

**Deutschkurse in der JDG**

April 2024 - September 2024

jeden Di.-So.

**懇談会サロン****インダストリー 4.0 : AI とデジタル化が生み出す日独産業の未来**

7/8(月) 18:00 ~ 19:30

日独協会セミナールーム

**Gesprächssalon: Industrie 4.0: Die Zukunft der japanischen und deutschen Industrie**

Datum: Mo., 8. 7. 24, 18.00-19.30

Ort: Seminarraum der JDG

講師:尾木蔵人氏(三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング副部長)

テーマ:インダストリー 4.0 : AI とデジタル化が生み出す日独産業の未来

参加者 20 名。2011 年にドイツ政府が採択した「インダストリー 4.0」は、同国の産官学プロジェクトとして進展し、日本の「Society5.0 超スマート社会」ビジョン、中国の「中国製造 2025」計画に大きな影響を与えてきた。今大きな注目を集めている Chat GPT に代表される生成 AI や、EU レベルで推進されるデータ・スペース構想「ガイア X」などの取り組みは、このデジタル化の流れを加速している。本懇談会サロンでは、この分野の最新動向をお話し頂き、日独産業の未来について考えた。(佐藤 勝彦)

**独逸塾**

7/15(月) 19:00 ~ 21:00

**Gesprächskreis: Neuigkeiten aus Deutschland**

Datum: Mo., 15. 7. 24, 19.00-21.00

参加人数 18 名

1. テキストは 2024 年 2 月 24 日 Spektrum der Wissenschaft 誌の „Pestizid-Cocktail im Blumenstrauß“

ドイツでのバレンタインデーで人気のバラは大量に海外から輸入されており、多くはケニアやエチオピアからである。アフリカで栽培されるバラには、使用されていた殺虫剤が残留し、ドイツの花屋の店頭でも有害で人体の生殖機能に影響があると問題視されている。またアフリカ現地での劣悪労働環境(長時間労働、低賃金、児童労働)も問題視されている。大量の殺虫剤はアフリカの現地の飲料水にも影響を与えている。バラの輸送には大量の CO<sub>2</sub> が必要とされている。この問題解決にドイツで生産されたバラをドイツで使用する地産地消を推奨するスローフラ

ワー運動が急速に、スイス、オーストリア、リヒテンシュタインまで広がっている。価格は高くなるが、より安全な切り花の需要が高まっている。

2. テキストは 2024 年 2 月 10 日 Nachhaltig im Gratz 誌の „Schnittblumen und die Slowflower-Bewegung“

ドイツでは切り花がスーパーで非常に安く手に入るようになっている。これはケニア、ザンビア等のアフリカ諸国における過酷な労働により安い切り花が大量に流入しドイツ国内の切り花の値段を押し下げているためである。アフリカ諸国からの切り花は残留殺虫剤があり健康上の問題がある。スローフラワー運動で価格は高いが地産地消で季節に適した持続可能な切り花の消費が期待されている。ドイツ語の表現で色々活発な議論があった。(森永 成一郎)

**ドイツ時事問題研究会 第 101 回**

7/20(土) 15:00 ~ 17:00

**Studiengruppe "Deutschland aktuell" (101)**

Datum: Sa., 20. 7. 24, 15.00-17.00

「当月のトピックス」では、①ヴィースバーデンに NATO のウクライナ支援調整センターを設置、②現政権がハルツ IV に代えて導入した市民手当のコストや雇用促進効果を野党などが疑問視、③石油大手が海外で取得した CO<sub>2</sub> 排出権に不正の疑惑、④悪化する各種景気指標、⑤ 2024 年上半期の電力消費量の 58% が再生可能エネルギー、⑥ EU が中国製電気自動車の輸入に相殺関税を発動、ドイツのメーカーは引き続き反対、⑦コロナで停滞していた見本市産業が復活、⑧金属労働組合が 7% の賃上げ要求など、1 か月間の数多くの出来事の中から主なものを紹介し、質疑応答を行った。

「今月のテーマ」では、「不安定化する欧州政治—ドイツの対応は」と題して、欧州議会選挙後の情勢について新井氏から報告し、質問に答えた。

最後に伊崎から 9 月に予定される東部 3 州の議会選挙について、選挙の仕組みや各党の動向などについて報告し、質疑応答を行った。(伊崎 捷治)

**シュブラッハトレッフ (日独言語交換会)**

7/20(土) 19:00 ~ 20:40

**Sprachtreff**

Datum: Sa., 20. 7. 24, 19.00-20.40

私は 4 月から Sprachtreff を担当しています。担当者になってから今回まで 4 回の Sprachtreff がありまして、9 月 21 日の回が私が研修生として担当する最後の Sprachtreff になります。

この間、ドイツ人は 60 人、日本人は 69 人が参加しました。5 月の Sprachtreff から、新しいコンセプトが導入されました。普通の自己紹介を含めて、参

加者は季節に合わせて、準備した絵(写真)を他のグループメンバーとお互いに紹介します。5月のテーマは「私の好きな場所(楽しかった、景色がきれいだった、紹介したい場所等)」と「私の好きな食べ物」でした。6月は「ドイツ/日本のここが好き!」と「私の趣味」でした。7月は「日本の夏/ドイツの夏(夏の過ごし方、夏休みの計画、風物詩など)」と「スポーツ(オリンピック、サッカーヨーロッパ選手権 スポーツ観戦など)」でした。

様々な参加者から、新しいコンセプトのおかげで、グループでスムーズに話せるようになったという意見がありました。

10月からは新しい研修生が担当します。Sprachtreffに興味がありましたら、ぜひご参加ください。

(高山 フロリアン)

ドイツ語圏文化セミナー 163 :  
「オーストリア国家公認ガイドが教える、ウィーンから行く魅惑のオーストリア世界遺産」

7/27(土) 15:30 ~ 17:30

Seminar 163 : Die faszinierendsten österreichischen Weltkulturerbestätten

Datum: Sa., 27. 8. 24, 15.30-17.30

講師: 今井謙さん(オーストリア国家公認ガイド)

折しも新潟県の「佐渡島の金山(さどのきんざん)」が世界文化遺産として登録が決定された日にセミナーは行われた。日本はこれで26の世界遺産があるということになるが、オーストリアは面積がほぼ北海道と同じ位。人口は神奈川県と同じ位の小国ながら、世界遺産の数は多くて12あるそうだ。

「ウィーンから日帰りでも行きやすい世界遺産3カ所」と題して、なぜ世界遺産に登録されたのか、選定の理由も含めて、

- 1 温泉都市 Baden
  - 2 ドナウ川沿いの Wachau 渓谷
  - 3 ハンガリーとの国境沿いにある湖 Neusiedler See
- をご紹介します。

私は群馬県出身なので伊香保や草津温泉などの温泉を医学的見地から世界に広く紹介したドイツ人医師ベルツ博士の功績が記憶にあったので、温泉都市Badenの話は大変興味深かった。

オーストリアでは娯楽や保養としての温泉利用の他に、温泉療養は医師の指示で医療行為として行われているとのこと。療養期間の費用は会社員ならば保険会社持ちで、病欠や有給休暇とは別の休暇が取れると言う。温泉がとても有意義に活用されている。現在ではカジノ施設として建て替えられた建物もあり、イベントや結婚式などにも利用する複合型施設もできたという。時代の流れということであろうか。

地図や路線図、写真を多用してのお話は非常にわ

かりやすく、世界遺産を取り巻く人々の暮らしぶりなども知ることができた。

美しい景観の名所や歴史、見どころ、旅の楽しみ方、美味しいもの、お勧めのお土産など、さすが公認ガイドさんの話である。行ったかのように、そして行ってみたいくなる、楽しくなる情報がいっぱいのあつという間の2時間だった。(石井 尚子)

ドイツ語圏文化セミナー 164  
「ドイツはどこへ向かうのか?—報道とデータでみる最近の政治・社会情勢—」

8/2, 8/16(金) 18:30 ~ 20:30

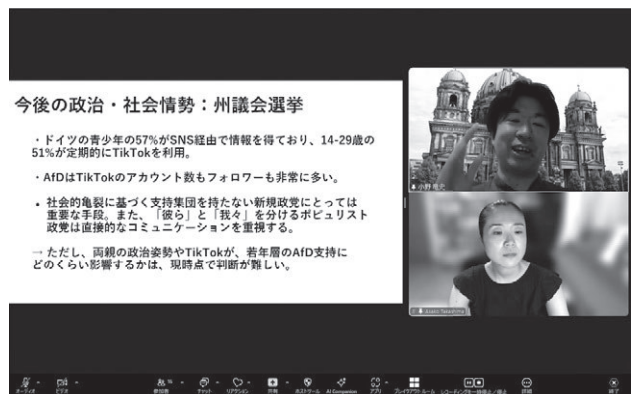
Seminar 164 : Wohin bewegt sich Deutschland? -Aktuelle politische und gesellschaftliche Entwicklungen, analysiert aus Presseberichten und Daten-

Datum: Fr., 2. & 16. 8. 24, 18.30-20.30

Ort: Seminarraum der JDG

世界のトレンドとして与党が厳しい状況に追い込まれている。こうした中、難民、エネルギー、SNS、環境、低成長、災害、EU問題で現在のドイツはどういう状況なのか関心が高い。春の講座に引き続き、ドイツ外交の専門家高島亜紗子氏、ドイツ現代史の専門家小野竜史氏のお話を2回に渡りオンラインで聞かせて頂いた。6月に行われたEU議会選挙はドイツ国内での投票率は64.8%と高いのに驚く。信号機内閣の中間評価の位置づけもあった。

SNSを駆使し若者の心を掴んだ極右政党AfDが躍進し第二党に躍り出る、また新規左派政党BSWの躍進する一方、信号機内閣の政党は落ち込んだ事が興味深い。これは政治学という凍結仮説でできた既成政党が、バックグラウンドも政策も従来のやり方が変えられないという指摘にも共感した。9月の州議会選挙、11月の米国の大統領選挙後、現政権はどう変化していくのか今後も目が離せない。ドイツと同じ価値観を共有する日本にも参考になる。最後にお二人の掛け合いのような議論にもいつも馴染みやすさを感じた。この講座はアーカイブでも聴講できるし資料を見られるのもありがたい。(末岡 眞純)



講師の小野氏(右上)と高島氏(右下)

## レポート ドイツ語圏文化セミナー 165 :

「バイリンガルを育てるには!？」の講座に参加して  
8/6(火) 16:00 ~ 18:00

### Seminar 165 :

#### Meine Reflexion nach der Teilnahme an einem Seminar „Wie man zweisprachig erzieht!?“

Datum: Di., 6. 8. 24, 16.00-18.00

講師：鎌田タベアさん

私はもう子育てをとくに終えています、今住んでいる長野の古民家には、次男のドイツ人の奥さんが同居していて、娘二人、つまり私の孫娘をバイリンガルに育てている最中ですので、このタイトルを身近に感じて参加しました。講座の中では、確かに！なるほど！と思えることがたくさんあり、楽しいひと時を過ごしました。ありがとうございます。

真っ先に思い出したのは、「国際結婚した場合、子どもへの最大のプレゼントはバイリンガルにする事！」と彼女がキッパリと私に最初に言ったことです。私は、母親のそして父親も、この揺るぎない決意こそが先ず大事なのだな、とその時にしみじみ感じました。まさに今回の講座でタベア先生がおっしゃったことです。

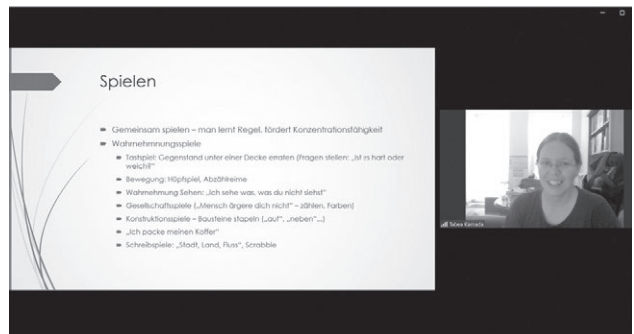
次男ファミリーは約8年のドイツ生活後に日本に生活拠点を移しました。上の子が7歳、下が1歳の時です。上の子が3歳の頃、私がドイツに遊びに行った時は、母親はドイツ語、父親は日本語で話し、私はもちろん日本語で次男とベラベラ喋っているのを孫娘は興味深そうにジッと観察している様子だったのを覚えています。更に、ドイツ語を話す時専用のぬいぐるみと、日本語を話す時専用のぬいぐるみがあり、それらを使って孫娘とおしゃべりしました。私

にも楽しい思い出です。

その子がもうすぐ12歳。日本に来たばかりの時の発話はほとんどがドイツ語でしたが、日本語はドイツ時代にも蓄積されていて、小学校入学と同時に外での発話は全て日本語になり、文字も学校で習って完璧の様子です。家の中では、最初は母親にドイツ語で！と言われていましたが、今ではいつも母親とはドイツ語がメインで私や夫や曾祖父には日本語、父親には日本語ドイツ語の両刀使いです。

近所の大人が遊びに来ますと日独英の3カ国が入り混じって賑やかです。更に、その孫娘のドイツ語の読み書きに関しては、ドイツのOma（おばあさん）から送られた本やドリルやゲームを使って、母親と練習時間を取りながら楽しく学んで、今ではドイツ語の読み書きもできます。下の孫娘には触れませんが、日本に来た年齢の違いや環境の違いなどから、バイリンガルの道ではありませんが、全く別のルートで山登りしているように思います。

孫娘が理解し話すドイツ語を、私も忘れたくない！と、この講座に参加してみても改めて思いました。(児玉 恵仁)



講師の鎌田タベアさん

## レポート 第72回 ドイツ語夏期講習会 Sommerintensivdeutschkurs (72)

7/26 - 8/16

Datum: Fr., 26. 7. 24, - Sa., 17. 8. 24,

今年も7月末から3週間にわたって、毎年恒例のドイツ語夏期講習会を開催しました。全てのクラスをオンラインで開催、実用に直結するクラスが多く行われました。オンライン開催ですと、先生や受講生も日本のみならずドイツ、その他の国から参加されており、様々な目的や学習背景を持つ方が集うようになりました。参加者は約100名。年齢層は10代から80歳代まで幅広く、ほとんどの方が協会のウェブサイトとSNSから講座を知ったようです。

協会のドイツ語講座は年2学期制で、4月から9月の上半期コース、10月から翌年3月の下半期コースがあり、通常クラスが終わって翌年度が始まるまでの間の3月と夏休みの8月に、短期集中講座を開催しています。短期間に知識を効率的に強化したり、通常コースでは取り上げられないテーマについて学ぶ講座も行われます。既存のテキストを使わずオリ

ジナルの内容で進められるクラスが多く、短期といえども講師陣は入念に準備をしています。

今回の講座の感想を一部ご紹介いたします。アンケート結果は今後の講座企画運営に役立てていきたいと思えます。

●何度も丁寧に基礎を繰り返してくれたので格変化などが定着した。(体育会系ドイツ語部 文法編)

●授業のスピードは早かったものの、先生(の説明)が明確で大切なポイントをしっかりと教えてくださった。(まるっとブラッシュアップ! A2文法)

●応用のきくフレーズをととても分かりやすく教えていただいた。繰り返して覚えることの大切さを体感した。(会話&リスニング力集中アップ! 中級編)

●自分がどの程度聞き取りができるのか把握することができた。聞き取りのコツ、今後どうブラッシュアップすべきか、ということも教えてくださった。

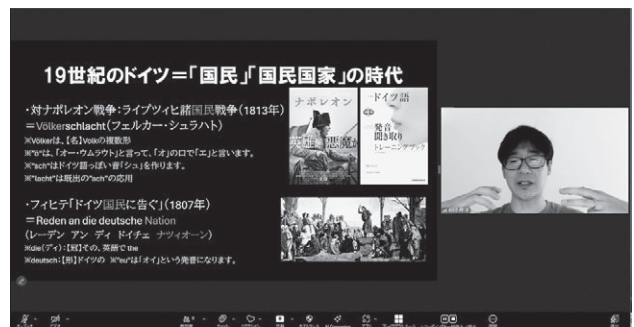


(体育会系ドイツ語部 Diktat 中級編)

● DWDS (ドイツ語のオンラインデジタル辞書) サイトを使った発表活動など、受講生が主体的に臨む時間が各回設けられていてあっという間の2時間でした。(自分のパターンを打ち破ろう!)

● 「手加減なし」で会話をしてくださったので、最初は難しいと感じたが最後にはある程度自信を持って話ができるようになり自分のドイツ語力が進化したように感じる (フロリアンさんと話そう)

※ カッコ内はクラス名



「ドイツ史キーワードで学ぶ歴史とドイツ語」の授業の様子 (講師は、柳原 伸洋先生)

## レポート はじめてのドイツワイン 第3回 夏に楽しむドイツワイン

7/21 (日) 14:00 ~ 16:00 日独協会セミナールーム

### Seminar: Deutscher Wein für Anfänger (3) Deutsche Weine für den Sommer

Datum: So., 21. 7. 24, 14.00-16.00 / Ort: Seminarraum der JDG

賀久 哲郎 (日独協会 理事)

参加人数 18 名、会費：会員 3000 円 一般 4000 円。提供ワイン本数：白5+赤1

「はじめてのドイツワイン」講座、第3回目は「夏に楽しむドイツワイン」と称して、白ワイン中心となりました。なんとホームページに案内掲載後 10 日で満席になる人気ぶりでした。当日は本当に暑い日でしたが、ご参加の皆さんはドイツワインに酔いしれてリラックスしたひと時を過ごされたようです。最後に恒例の自己紹介が和やかな雰囲気で行われワイン会が締めくくられました。ご参加の皆様、猛暑の中、本当にご参加有難うございました。

下記に、講師の小倉彩記子さんと、今回ご夫婦で一般参加された、友金さとみさん(なんと本当にドイツワイン初めての方です!)の感想をいただきました。



小倉講師 (左奥) と著者 (右奥) の説明を聞く参加者たち

### 毎日の食卓に気軽にドイツワインを!

小倉彩記子 (講師)

第3回目となる講座は「夏に楽しむドイツワイン」。今回は特別なお料理でなくともご自宅のいつものご飯とドイツワインとペアリングできることをご体験いただきたく、なるべく沢山のおつまみをご用意しドイツワインをご家庭の日常の食卓に気軽に取り入れられることを感じていただきました。ペアリングは料理とワインの地方地域を合わせる、格を合わせるなどの他は、①同調させる (お寿司と酸が豊かなリースリングを合わせるなど)、②相乗効果を狙い補完する (甘みと塩分、渋み、酸味と脂肪分など) をヒントに毎日の中で気軽にドイツワインを楽しんでいただく術をお伝えしました。またアロマホイール\*を見ながら香りの複雑さ華やかさ繊細さを存分に感じ取って頂きました。

自分で感じる漠然とした〇〇のような香りがアロマホイールを見ながらですと「そう、この香り! ある!」というお声があちこちから聞こえて皆様大変楽しそうにされていました。

拙い解説ではありましたがお付き合いいただいたご参加の皆様、日独協会様、講師の賀久様、伏見ワイン山本様、ありがとうございました。

※(編注)ワインの香りを視覚的に円形のチャートで表したもの

### 「はじめてのドイツワイン」に参加して

友金さとみ

美味しいドイツワインが飲めるイベントがあると聞き、ドイツもワインも超初心者ですが、お酒好きの夫と一緒に参加させていただきました。

今回は6種類のドイツワインを試飲しましたが、その中でも特に印象に残ったのは「Steinberger Riesling Kabinett」です。口に含んだ瞬間、「美味しい!」と自然に声が出るほど、そのほどよい甘さとジュシーな味わいに感動しました。

また、ワインの生産地、土壌や気候、醸造方法などについての説明もあり、ワインを通じてドイツ文化や歴史の一端に触れることができたのは、非常に貴重な体験でした。帰りはほろ酔い気分で、ドイツワインとドイツという国にすっかり魅了されてしまいました。また機会があれば、さらに多くの種類のワインを楽しみたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を提供して下さった主催者の皆さまに、心から感謝いたします。ドイツワインの魅力だけでなく、ドイツの文化にも触れることができ、とても充実した時間を過ごせました。本当にありがとうございました。